

もしも歴史上の人物の死因が性的なものだったら 織田信長の場合

ある日の昼頃

濃姫「信長様、どちらへ」

信長「ちょっと出掛ける。」

家来「上様、ご一緒しますか？」

信長「いや、いい。」

そして馬に乗ると安土城を後にする。

ヒヒィィン！パカラ！パカラ！

城を出た信長は山の中の道を京都方面へと馬に乗って進んだ。山の中の道を進む理由は目立たないようにするため。そして京都に着くころには夜になっていた。その日信長は、京都一の美人巫女と名高い本能寺の巫女、遙と密会をする予定であった。本能寺に着くころには夜も更け密会にはうってつけの時間であった。

遙「信長様、お待ちしておりました。」

信長「ああ、そなたを見ているとしもの棒が大きくなる。」

遙「ええ。信長様は野望だけでなくイチモツも大きいのですね。」

信長「よしてくれ。それでだ。この事は濃姫には秘密にしている。」

遙「秘密の関係ということですね、信長様。」

信長「ああ。じゃあやるか。」

遙「ええ。」

そして美しい巫女装束を脱ぐと畳の上に敷かれた布団の上に寝転がった。

お試し版はここまで